

6421
34

大正六年十二月殖産局商工課調査
南支那及南洋調査第十六

(以印刷代騰寫)

南洋ニ於ケル邦人ノ企業

秘

臺灣總督府

大正七年七月二日 記録第二部接受

南洋略圖



3-1252

0374



3-1252

0375



3-1252

0376

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

序

本調査ハ事務ノ傍短日月ニ拾收シタルモノナルヲ以テ眞ニ其概要ヲ點綴シタルニ過キズシテ杜撰粗漏ノ譏ハ固ヨリ免ル、コト能ハズ苟モ徹底的ニ其状態ヲ知悉セントセバ實地踏査ヲナスカ將タ當路ニ照會シテ特別調査ヲナスノ要アリ然カモ之レガ爲メニハ多大ノ日子ヲ要スルヲ以テ這ハ他日ニ譲リ今次ハ主トシテ外務省臺灣總督府、臺灣銀行等ノ南洋ニ關スル報告書類、市井發行ノ南洋ニ關スル書籍、新聞紙、雜誌及ヒ臺灣總督府技師堀内政一、同技師山崎嘉夫、同技師金平亮三、同囑託松岡正男氏等ノ復命書等ニ基キ本編ヲ纏メタルモノニシテ猶遺漏セル

二

第二節 椰子栽培組合……………三

第三節 安藤保太郎……………三

第四節 鈴木合名會社……………六

第五節 鈴木合名會社……………六

第六節 其他……………三

第四章 關領東印度……………三

第一節 大谷光瑞伯……………三

第二節 南洋興業組合……………三

第三節 正源司寬吾……………三

第四節 元島作太郎……………三

第五節 南國産業株式會社……………三

第六節 南洋製糖株式會社……………三

第五章 海峽殖民地及馬來半島……………三

第六章 暹羅……………三

第七章 佛領印度……………三

第八章 結論……………三

附表 在南洋日本實業者一覽……………三

盤	二二九	三三九九	四七六
谷	一四六	一四六〇	二〇六
計	九九六五	五九四三	一五九〇八

此ノ外南支及香港方面ヨリ轉航又ハ密航スルモノ甚カラスト稱ス故ニ實際ノ員數ハ前記調査當時ニ於テスラ尙二萬人内外ヲ算スヘク殊ニ近來ハ南洋熱勃興シ契約労働者ニシテ彼地ニ渡航セルモノ既ニ少カラサルカ上ニ何等ノ目的ヲ空想ヲ追フテ彼地ニ向ラシテ亦及稀ナラサルヲ以テ今ヤ其數優ニ三萬ヲ超過スルニ至レバ疑ナシ然ガモ其大部分ハ雜貨商賣藥商職工漁夫吹矢玉轉方シ等ニアラスハ賣春婦及其寄生蟲ニシテ既ニ人的要素ヲ缺キ到底發展ヲ期待シ得ヘキ分子ニアラス其ノ中多少異面目ノ發展ヲ企圖シツ、アルモノ之レナキニアラスト雖モ其ノ多ク些少ハ資本ヲ以テ雜貨ノ卸小賣ヲ

營ニモノニシテ荷モ鞏固ナル基礎ニ依リ根本的發展ヲ策シ未開ノ富源ヲ拓殖シテ彼此ノ福祉ヲ増進シ經濟的關係ノ密接ヲ圖リテ相互ノ親善ヲ來ダシ得ヘキモノ實ニ曉星モ管ナラス然リト雖モ中ニハ相當ノ資本ト智識トヲ利用シ一定ノ土地ニ定著シテ眞ニ將來發展ノ基礎ヲ築カント欲スルモノ亦タ決シテ之レナキニアラス此等ハ今尙南方經營ノ初期ニ屬シ其ノ成績未ダ顯著カラスト雖モ將來ノ發展ニ於テ鞏固ナル中堅タル運命ヲ有スルモノト思惟セラハ、ヲ以テ茲ニ聊カ其ノ情況ヲ查シ以下項ヲ逐ヒ概述スル所存ルベキナリトス

第一章 比律賓

比律賓ハ米國ノ領土ナリ以テ其入國規則ハ比較的嚴格ナリトシテ、地方ニ依リテハ風土良好ナラズモ地位我南隣ニ位シ交通比較的便利ナル以テナラス其ノ支配者ハ英語國民シテ事情ノ開明亦

而シテ其ノ大部分ハ大工其他ノ職人ニアラスシテ飲食店及其ノ附屬者又ハ關係者ニシテ基礎アル企業ヲ營ムモノハ固ヨリ多カラス近時麻ノ栽培又ハ其ノ仲買ヲ企圖シテ渡航セルモノハ甚カラスト雖モ此等ノ多クハ労働者ニアラスハ無資ノ空拳者ナルノミナラズ亦少カラザルニ寄生シ其利益ヲ吸收センカ爲メニ渡航セルモノハ甚ク多クナラズ他ノ熱地地方ルヲ以テ其中真ニ企業ニ著手スルモノハ甚ク多クナラズ亦少カラザルニト雖モ同地ハマニラ麻ノ栽培ニ適スルノミナラス他ノ熱地地方ノ如ク椰子珈琲等ノ栽培ニモ適シ漁業モ幼稚ニシテ開發ノ餘地アルヲ以テ本邦ノ先覺者ニシテ此等ニ著目シ既ニ相當ノ資本ヲ投シテ這種ノ事業ニ著手セルモノ又ハ將ニ著手セントスルモノ之レナキニア

合	計	七、七九四
前年同月比	ΔX	九、五五八
増減		五、七五二
前年同月比	ΔX	四、五五四
増減		二、〇一八

時計販賣及修理	三	
履物商	一三	
酒味増製靴業	一六	
砂糖菓子類販賣	二七	
雜貨	四三	
仲買	一六	
行會社員事務所	三六	
店員	三三	
請負	三五	
人事其他	三三	
船運	三三	
船泊	三三	
旅人宿	三三	
料理店飲食店	二四	
遊藝場及興行營業	三〇	
理髮	二七	
料理人(ボーイ等)	三〇	
家事被服備	二八	
技藝及娛樂ニ關スル業	二八	
雜業	一〇	
計	一、〇七四	
前年同月比	ΔX	九、五五八
増減		五、七五二
前年同月比	ΔX	四、五五四
増減		二、〇一八

其他六狀況ヲ審分シタルコト能ハサレバ遺憾ナシ故ニ茲ニハ唯單ニ前記五六ノ事業ニ關シ開込ミタル所ヲ記載スルニ止テ其他ハ追テ調査スルコトヲ留ムルニ付シテ其ノ詳ニ關シテハ別紙ニテ之ヲ大體ニ示ス

本島ニ於テ第四節ニ太田興業株式會社ノ設立ニ付テハ其ノ詳細ニ關シテ太田興業株式會社ノ明治三十七年五月三日太田商店ノ組織ヲ變更シテ現會社トナシ以テ後者ノ事業ヲ繼承シタリテ其ノ積立金ヲ有スル本島ニ於テ二十五萬圓ニシテ外ニ十七萬八千二百餘圓ノ積立金ヲ有スル同社ノ本店ヲミンナガハ島ノ南東ダバオ灣頭ニシテ置キ

ニラ及シテアヲシテ出張所ヲ設ケ各種ノ事業ヲ營ムルニ付テハ其ノ事業ノ種類ハ極メテ廣汎ニシテ現行經營シテハ其ノモノシテ其ノ揚ク

レハ左ノ如シ

一、農業及林業
 二、小作人ニ對スル土地ノ貸貸

三、小作人ニ對スル資金ノ供給
 四、灌溉事業
 五、枕木ノ製作
 六、沿岸航海ノ代理業
 七、日用雜貨ノ輸入及販賣
 八、農産物ノ賣買及輸出
 九、海産物ノ賣買及輸出
 十、其他土産物ノ賣買及輸出

其中農業經營ハ同社ノ主ナル目的ナルカ之ニ充ツヘキ土地ハ四千〇十三町ニシテ内六千三百五十六町ハ社有ニ屬シ二千八百五十七町ハ租借地ナリ云々

自ラ勞働者ヲ使役スル麻及椰子ノ栽培ヲ若クモハシテ既ニ植付ク

寸シタリキハ約九百町歩シテ内麻ノ植付ハ約三百町椰子ノ植付
 ハ約七百町ナリ云フ而シテ將來更ニ約二千三百町ノ椰子園ヲ開
 拓スルキ計劃ナリト之レニ使用スル勞働者ハ日本人百五十人土人百
 五十人モトヨリ人八十八人合計三百八十八人ナリ又ニ千八百五十町
 小作制ニ依リモ如何ナル成績ナルヤ知ルカラス雖モ小作農
 夫ノ數ハ日本人四百五十名ニシテ現在ノ未墾地中約六割即一千八百
 餘町此等ノ農夫ニ耕作セシムルモノナリト云フ
 同社ハ經營セリ灌溉事業ハ着々其効ヲ奏シ大正四年七月ニ起工シタ
 ル工事遂ニ完成シ近ク千五百町歩ニ灌溉スルニ至ルヘシト本工事
 ニ要スル費用ハ約十萬圓ニシテ水路ノ延長其他ハ左ノ如シ
 正木、鹽田、長、幅、底幅、深
 第一支線 二五哩 一五尺 八尺 四一〇尺
 第二支線 一六〇哩 寬途、天然ノ谷川、三三三尺 二一三尺

如此ハ比島ニ於ケル民設水利工事中最近完備セル者ナリ云フ
 又ニラ及ザシホテシカシ出張所ニ於テ邦貨ヲ輸入及土貨ヲ輸出ヲ
 經營シ航海業ノ代理ヲモ營ミ各方面ニ發展シ努力シテ其力ヲ申張
 實ニ同社ヲ長太田恭三郎氏ハ如此太田商店時代ヨリ引續キ本事業ヲ
 經營シ著々其効ヲ收メ他面蘇洛真珠採貝會社ヲ組織シ經營シ各種ノ
 企業計劃ヲ具シ將來ノ大々的發展ヲ根本的基礎ヲ確立シ企テ其力ヲ
 カ此等ノ企圖ハ可惜未タ完成スルニ至ラスシテ最近其計畫ニ接ス吾
 人只帝國南洋發展策ヲ爲メ大ニ同氏ノ計畫ヲ悲シクシテ其力ヲ得ルナ
 同氏ノ計畫ハ第二節蘇洛真珠採貝會社ニ於テ詳シク述ベテ置キ
 比島ニ於テ邦人ノ漁業ヲ營ムル者五百有餘名内百餘名ハ比島内
 三ノ漁業ニ從事スル者ナルガ此等貧弱貧乏漁夫ノ個人的經營ニ屬
 スルモノナルカ故ニ此等ニ對シ將來果シテ組織的發展ヲ期待シ得ル

キヤ否ヤ疑大能ハ然ルモ出京非島ニ於テ邦人ノ真珠採收業
 不ノ關領ト利島ニ於テカカ如ク外國會社指揮合下ニ勞働スルモ人
 力ススエ邦人カ其頭腦トナリ手足トテ活動シタルモノカ
 同地ノ邦人カ初メ本業ニ從事スル者然明治三十九年ノ末ニシテ最
 初ハザンボアンガ方面ニ於テ經營シタリシカ其後本島環海ニ於テ真
 珠貝ノ豐富者知ルヤ漸次ザンボアンガ又引キ上テ本島ニ移ルモ
 多ク加信久ルモ余ナリト云ス本島ハ日利島ト異テ風波ノ虞大ク
 採收ニ便方原々大ニ氣候亦頗良シテ衛生活潑ト最ニ好適ト云テ
 健康狀態ハ頗ル佳良シテ邦人外支那人及比島人等之ハ在ルモ
 本島ニ於テ本業ヲ營シテ邦人外支那人及比島人等之ハ在ルモ
 其台主カモ人カ邦人ニシテ其ノ經營者數多之ハアルモ其中最モ
 大方ルモノハ蘇洛真珠採收會社トテ同社ノ資本金十九萬九千圓ト
 ニシテ木田氏其ノ社長トシテ同氏ノ死後何人カ其椅子ヲ占メタル

不明ナリ同社ノ潜水船二十五隻ヲ有シ邦人約四百名ヲ指揮シ同島
 近海ニ於テ真珠貝ノ採收ヲ行シ年額六萬圓ノ收入ヲ得ツハアリト其
 ノ詳細ヲ得テ知ルカラスト雖モ其ノ狀態ハ恐ラク良好ナラント思
 惟テラカス
 第三節 古川拓殖株式會社
 古川拓殖株式會社ハ大阪商會伊藤忠ニ後援ニ依リ同商ノ總支配人トシ
 合弟古川林學士ヲ經營スル事トシテ數年前カオシ於テ米秋等
 フラシマツチカチカチ氏ノ經營ニ依リ農園五百町歩ヲ買收シテ
 麻ノ栽培ヲ其ノ買收トシテ經營セルモノナカカ同農園ハ麻ノ栽培ニ適
 セサルヲ以テ之ヲ椰子園トシテ欲シ現況植付タル者對シ
 浮込沙施治等同時新クニ同樹ノ植付ニ著手シタルカ云フ
 而シテ同社ハ別段麻園ヲ選擇シ近頃二萬圓ヲ以テ約六百町歩ノ麻園
 ヲ買收シ其ノ耕作ト共ニ同鐵維ノ買收ヲ企圖シ盛ニ本邦ニ向ケ輸出

ンツのヲ物ト云フイ共ニ自費ニ買得ルモノハ本港ニ自ラ運出
 南米殖民株式會社取締役タル同氏ハ最近ク密カニ於テ米人キタ
 テン、ソノヲソノ氏ハ經營セル事業ソ全部ヲ引受ケテ大規模ニ依
 リ各種ノ事業ヲ經營スルコトヲ既ニ十一月勿頭其旨ヲ於
 テ發表シタルト云ウ其事業ハ椰子ノ栽培、牧畜、製氷等ヲ椰子
 園ノ豫定地ハ一千餘ア有シ既ニ植付クニシテ今後之ヲ基礎トシテ益々本事業
 ヲ擴張スヘシト云フ右ノ方面ニ於テハ屈指ノ事業ナルヲ以テ着々
 其進捗ヲ計ラハ比島ニ於ケル邦人ノ事業トシテハ太田興業ニ亞クノ
 一大企業トナシ至ルヘシト云フ其ノ事業ハ、自費ニ買得ルモノハ本
 本組合ハ松岡富雄氏外四名ノ日本人計一以ハ比島人ヲ組織係以資

本金額約三十五萬圓ヲ以テ開拓事業ヲサスモソナルカ本年ノ開拓市
 兼約五哩アルルサシ河畔ニ於テ三千五百餘町ヲ開拓シテ二千四百町ヲ拂下
 ラ受ケ六月ヨリ事業ニ着手シ既ニ二千餘町ヲ開拓シテト云フ之ニ
 栽培スルモノハ椰子、麻、椰子及米ニシテ三箇年ノ後ハ麻園五百町歩
 椰子園四百町歩米田二百町歩ヲ開拓スルニキ豫定ニテ事業ヲ進行シツ
 ヲケリ之ニ使用スル勞働者ハ主クシテ邦人ヲ以テ充當スル計劃ニテ
 既ニ七十名ヲ移民ヲ行ヒ來春再ニ百五十名ヲ移民セシメキ豫定ナ
 リ農園トシテ市トシテ交通ハラシテ運輸ヲ經營シテ連絡ヲ計ラツ
 アリト云フ其ノ事業ハ、自費ニ買得ルモノハ本港ニ自ラ運出
 本會社ハ無限責任社員松岡富雄外四十九名ノ合資ニ屬シ其ノ資本金
 約三十萬圓ニシテ社員一名ニ付六千圓宛贈出シテ下スルモノニシテ
 不取敢一千圓宛五萬圓ヲ拂込シ殘額ニ必要ニ應ジ出資スルモノトス

本會社ハ比律賓群島ニ於テ麻椰子其他ノ農作物ニ之ニ伴フ農産物ノ加工買及不動産擔保資金ノ貸付並ニ開墾拓殖事業ヲ營ムヲ以テ目的トスルモノニシテ既ニ去年九月呂宋島タヤバ州ノ南端ニ於テ米國人ノ經營セザ椰子園及未墾地八百四十三町歩ヲ買收シ之レカ經營ニ着手ス更ニ椰子ノ買加工ヲ爲サンカ爲メ目下乾燥場ノ建築準備中次以テ云フ斯クテ第一期ニ於テハ最モ安全ニシテ且有利ナル椰子栽培ヲ遂行セシム欲シ既ニ植付タル椰子樹四千本ノ育成ニ努ムルト同時ニ未墾地ノ開拓ヲ行ヒ五萬餘本ノ椰子園ヲ作成スル計劃ナリ茲如右計劃ノ成就スルニテハ他國ノ椰子買收ノ之ニ較シ乾燥場ヲ設クズトシテ輸出セント欲スルモノナリ第二期計劃ニ於テハ適當ノ地ヲ相シ製油工場ヲ設ク椰子ノ子實ヲ原料トシ直接採油ノ方法ヲ講シ以テ椰子油ノ製造輸出ヲナスヘシト云フ而シテ比島ニ三千有餘島嶼ヨリ成リ各島間交通一ヨリ船舶ニ期待セザルヘカラオカニ現今航海

業ハ極メテ不完全ニシテ將來發展ノ餘地甚タ大ナルヲ以テ同社ハ附帶事業トシテ航海業ヲモ經營スヘシ云フ然レテ一覽表ニ於テ

第三章

英領北婆羅洲

英領北婆羅洲即英領北婆羅洲ニ其ヲ保護領タルサラウック及ブルネニ於ケル本邦天賦在留數ハ新嘉坡領事館ノ調査數ニ包含スルヲ以テ今茲ニ明知スルニ由ラシト雖モ交通不便ナルヲ以テ久原農園所屬入夫シ渡航スルマテ極メテ少數ナリシナルヘシ南洋通覽ニ從ヘシ英領北婆羅洲ニ二百四十六人サラウックニ約百人ナリト以テ如何ニシテ數ヲ増シテ想フベキナリト云フ然レテ南洋通覽ニ從ヘシ英領北婆羅洲ニ約四百人ナリト以テ如何ニシテ數ヲ増シテ想フベキナリト云フ然レテ南洋通覽ニ從ヘシ英領北婆羅洲ニ約四百人ナリト以テ如何ニシテ數ヲ増シテ想フベキナリト云フ然レテ南洋通覽ニ從ヘシ英領北婆羅洲ニ約四百人ナリト以テ如何ニシテ數ヲ増シテ想フベキナリト云フ

右表中ノモノモ各個ノ事業狀況ハ詳知スルニ由ナシト雖モ稍督府ニ關係アル企業又ハ載積ノ微スヘキモノハ灰カニ其ノ概況ヲ窺知スルヲ得ヘシ故ニ茲ニハ唯單ニ窺知灰聞シタル企業狀況ニ就テノ記載スル所アルヘシ

第一節 久原農場

本農場ハ最近ニ開設シタルモノナリト雖モ英領ボルネオ中最大ノ農場ナルノミナラス最モ根本的ニ劃策セラルレツ、アルヲ以テ同方面ノ代表的農園ト稱シテ可ナリ蓋シ本農場ハ政府ノ農場ヲ拂下ケ之ヲ基礎トシテ其擴張ヲ企圖セルモノナルカ其所在地ハタワオ港ヲ距ル一哩ノ處ニ在リ同地ハ北ボルネオ中氣候最モ適順ニシテ且ツ土地最モ肥沃ナルヲ以テ同國政府ハ多年此地ニ希望ヲ屬シ今ヲ去ルコト八年

前政府自ら其開拓ニ着手シ大正四年ニ至リ既ニ五百哩ノ護謨園ヲ開設シ漸次開墾面積ヲ擴張スルノ方針ナリシカ歐洲戰亂ノ突發ニ依リ

テ種々ノ障害ヲ來タシ進ムテ之ヲ續行スルコト困難ノ狀態ニ至リタ

ルヲ以テ適當ノ引受者アラハ之ヲ拂下ケテ其欲シ密カニ其ノ希望者ヲ物色シツ、アリシナリ是ニ於テ一昨初春一米國人ハ之ヲ踏査シ其ノ拂下ヲ企圖シタルシカ當時政府ノ囑託トシテ同地ニ在リキ後藤林學士ハ本邦企業家ノ爲メニ是非止モ保留センニテ主張シ未ダ決定ニ至ラザルニ際シ林謙吉郎氏ハ南洋視察ノ途次同地ニ赴キ眼前土地ノ豐饒ニシテ各種栽培ニ好適セルヲ見四圍ノ事情亦頗ル邦人ノ企業ニ便ナバ覺ル上共ニ右ノ事實ヲ聞知シタルヲ以テ同氏ハ垂涎措クニト能ハス密カニ其拂下ヲ得テ發展ノ基礎ヲ劃セムト欲シ他方面

ノ視察ヲ中止シテ直チニ内地ニ歸リ久原氏ニ其ノ實況ヲ語リ國家

的利益ヲ爲シ其買收ノ必要大ナルヲ論シ以テ其ノ投資ヲ勸誘シ然レ

久原氏ハ嘗言ク下ニ之ヲ踏査直チニ新嘉坡領事ニ打電シ其ノ買收ヲ

托シテト同時ニ林氏ニ同地事業ノ總指揮權ヲ托シタリ之レ即チ同農

三六
障ヲ七萬圓ニテ買收方ヲ交渉シ目下ボルチオ殖産株式會社ヲ創立シ
テ之ヲ經營ラサント計劃シツ、アリ、同會社ハ資本總額ヲ百萬圓トシ其第一回拂込額二十五萬圓ヲ以テ第
一着ニ前記ノ土地ヲ買收シ之ニ出願中ノ租借地ヲ得併セテ三萬三千
陸ノ土地ヲ基礎トシ直營及小作制ニ依リ之ヲ開拓シ主トシテ護謨椰
子ノ造林ヲナスト共ニ煙草及棉花ノ栽培ヲモ經營シ其ノ附帶事業ト
シテ倉庫業、貿易業、金融業、製鹽業、パルプ製造業、鑛山業等ヲ兼營スヘ
シト云フ、第四節、ボルチオ護謨株式會社ハ、護謨島ノ南洋羣島ニ於テ
本會社ハ新嘉坡ヲ護謨國經營者タル遠藤隆夫外埠稻田出身者數名ヲ
計劃ニ基キ設立發起ヲナシツ、アルモノナリ其ノ計劃ニ從テ英
領北ボルチオニ於テ五年生ノ「ボラ」護謨樹ヲ栽培セル既成園約一千陸
十畝地約九千陸ヲ買收シ既成園ニ於テ初年度ヨリ採液ノ吐收益

三九
ヲ擧グアル方法ヲ講シ未墾地ニ在リテハ初年度ニ一千陸次年度ヨリ
五年度ヨリ共毎年二千陸ツ、開墾シ之ニ護謨ヲ栽培シ以テ五箇年以
後ニ於テ萬陸ノ護謨園ヲ得テ欲スルニシテ尙副業トシテ他ノ
有利ナル熱帶植物ヲ栽培スルモノト云フ其ノ資本金ハ五
百萬圓ニシテ第一回其ノ四分ヲ一ツ拂込之ニ依リテ事業ニ着手
シ第三年度ヨリ各年同ツ、一ツ拂込ヲナスモノトシテ如其ノ發起人
去ル九月十七日「ボラ」確定モシモノ二十六名ニシテ更ニ數名ヲ增加ス
ベク株式式同日ヲ引受決定シ分五萬株ニシテ其他之半數ハ未定
ケカ如シ而シテ同社ハ何地ニ於テ何人ハ所有園ヲ買收シテ事業ニ着
手ナルヤハ不幸ニシテ未タ聞知スル能ハズ、前記三十名發起人
中「ボラ」第五節、鈴木合名會社ハ、護謨島ノ南洋羣島ニ於テ
サラワツクニ於テ鈴木合名會社ノ經營セル護謨園ハ同地ノ代表的企
業トシテ外國資本ヲ以テ大規模經營ヲ行ハシメ、護謨株式會社以外

本農園の状況は本農園の狀態を就テ山崎技師カ實地踏査の上概説シタルモノ之レヲ以テ茲ニ之ヲ掲記スルコトニテハ、テスヘシ其前金鈴木商店經營の進歩ハ二箇所ニ分ル一ハクチンヨリ鐵道終點七哩(バトイズニ)ノ所キアリテ名ツケテ日田護謨園ト云フ面積三十五英反本園ハ元支那人ノ所有ニシテ買收後漸次開拓シ植付見テシタルモノナリ二年生乃至五年生等老幼混雜シ目下四年生及五年生ノ生付切付ケテ開始セリ而シテ五年生ノモスニテ本年一月四日ヨリ二月四日ニ至ル箇月間ノ生長量ヲ測定シタルニ〇三吋乃至〇九吋以生長ヲ爲ス以テ如何ニ生長度ノ旺盛ナルカヲ推知スル足ル次々クテシヨリサラバ河ノ支流三十哩ノ地點サマラム(Samarah)ニ在リ借地面積二千英反此地開園當時ハ鬱蒼タル千古ノ天然林ナリシカ護謨植付ト共伐採シ合ヤ植付面積六千英反三十萬本ニ達シ以テ土地平坦ニシテ地味頗ル肥沃乾燥スルコトナキヲ以テ「バラ」護謨植栽地ト

シテ誠ニ申分大キ土地ヲ謂フヘシ園内小丘アリ之レニ宏大ナル洋風ノ事務所ヲ設ク試ミニ「ペランダ」ニ昇リテ回顧スレバ護謨園トニ望坦々盡ク目ニ入ルヲ以テ思ハス快哉ヲ呼ハシム植栽樹ノ年齡二年九箇月(大正五年二月)ニシテ本年六月三日至レテ切付ケテ開始得ル謂フ蓋シ今日ニ至ル迄ニ「米田氏(同農園主任)ノ經營苦心ノ狀誠ニ推察シ得ルニシト雖モ一度切付ケテ開始シ護謨シテ「市」場ニ搬出セラルヘシ至ラハ同氏ノ得意モ尋常ノモノニアラズハ即チ前記如ク「ボルネオ」會社ヲ除キテ「外國人」ニシテ「米田氏」ニ次ク「護謨園」ニシテ「同氏」ノミヲ「不雅」ニ「日本人」ノ誇リトスルニ足ル「因」テ「伐木」ニ「テ」シテ「土人」ヲ植付穴堀ニ支那人ヲ除草及植付「馬」來人ヲ使役ス植付距離ハ二十四尺、三十二尺又ハ二十四尺ト爲ス「不備」人料「及」馬來人ハ平均最高四十仙、支那人五十仙ノ割合ナリ而シテ馬來人ノ除草「用」ニ「ル」コト「ナ」グ「皆」刀ヲ「用」ユ目下其除草ハ護謨樹一本ニ付一

仙五厘ヲ被拂フコト大ニ管見ヲ以テ其領事ハ獨得一本ニ於テ一
 人ハ年々其第六節其地他正十餘ノ開合ヤリ而シテ其地人ノ領事
 沙沙巧巧クニ於テ其前節記載ノ外ニタジ及バテ小栽培地ニ依
 本栽培地ニ關シテ山崎技師及松岡廣託ヲ復命案略記スル所ニ依
 以テ其地ニ距カ南七哩ヲシ山麓ニ清水氏ノ家ヲ設テ護謨園十英反アリ今
 ヤ切付ケテ著手ヲ起リト同氏以水戸ノ人年餘漸ク三十五歲距余約八年
 前即チ二十七八歲時ニテ本事業ニ着手シ獨力以テ本護謨園ヲ開拓植
 付了シタルモノナリ云フ前記ノ三氏ハ更ニ附記シテ曰ク外國ニ
 來ル間余ヲシ河内リツラツラニ終點ニ渡場アリ日本
 文字ニ「わたり」實ニ仙ノ立札ニテ外國ニテ日本語ヲ表相ス見ル感極
 妙ナリト云フ其地人ノ領事ハ獨得一本ニ於テ一人ハ年々其第六節其地
 沙沙巧巧クニ於テ其前節記載ノ外ニタジ及バテ小栽培地ニ依
 ツ其面積約七英反アリ同氏ハ初メテ沙沙巧巧クニ來レルド其地中

仙モ殘ニ所ナカリシカ數年ノ間刻苦健闘シテ本國ヲ開拓シ大正元
 年松岡氏カ訪問シタリシトキハ既ニ二百六十餘本ノ液汁ヲ採收シ月
 收四十弗以上ニ及ヒタリト云フヨリ見レハ今ヤヨリ以上ノ收入ヲ得
 ルニ至レルナルヘシ同氏ハ目ニ一丁字ナキ一小農ニ過キスト雖モ夫
 婦心ヲ協ニ奮戰苦闘ニ努メタル結果ハ遂ニ七英反ノ地主トナルニ至
 レルモノナリト云フ

第四章 蘭領東印度

蘭領東印度ハ馬來群島ノ大部分ヲ占メ大小數千ノ島嶼ヨリ成リ廣袤
 實ニ七十三萬五千方哩ニ達シ俗ニ所謂南洋ノ代表的邦土ニシテ中ニ
 ハ相當文化ノ進ミタル瓜哇及モレベスヲ合ハシメテナラス開拓ノ餘地
 豊富ナルスマトラ並ニボルネオ及ニウギニアノ大部ヲモ包擁スルヲ
 以テ總ユル方面ニ發展シ得ベキ可能性ヲ有ス雖モ同方面ニ在留ス

邦人ハ僅カニ三千二百廿二人ニ過キス試ニ此等ノ職業別ヲ見ルニ
左ノ如シ

官公吏	醫師(齒科醫共)	農業者	園藝植木職	農務勞動	牧畜業、養蠶業	漁業、製鹽業	金銀鑛甲細工裝飾職	鐵工鍛冶職	木挽業	和洋服縫製業	洗濯業	大工工	寫真業	商業(特記ナキ者)
三	三	三〇	一四	二四	五五	三五	八六	三七	三七	五八	五八	九	九	五〇
男	三	三〇	一四	二四	五五	三五	八六	三七	三七	五八	五八	九	九	五〇
女	三	三〇	一四	二四	五五	三五	八六	三七	三七	五八	五八	九	九	五〇
計	三	三〇	一四	二四	五五	三五	八六	三七	三七	五八	五八	九	九	五〇

三四

藥種賣藥商	綿絲製服商	砂糖菓子類販賣	茶商	雜貨商	貿易商	行商	銀行員、事務所員	船船從業者	旅人宿下宿	料理店、飲食店	遊藝場及興行營業	理髮、髮結業	料理人	茶亭執事人	浴水夫	雜業	學生及練習生	無職業及職業ノ申告ナキ者
三〇	三〇	三六	二〇	四六	四	九五	三五	二八	二八	二七	二六	三一	二一	八〇	四八	五	三六八	一七二八
男	三〇	三六	二〇	四六	四	九五	三五	二八	二八	二七	二六	三一	二一	八〇	四八	五	三六八	一七二八
女	三〇	三六	二〇	四六	四	九五	三五	二八	二八	二七	二六	三一	二一	八〇	四八	五	三六八	一七二八
計	三〇	三六	二〇	四六	四	九五	三五	二八	二八	二七	二六	三一	二一	八〇	四八	五	三六八	一七二八

三五

前年同期との比較 Δ× 減増
 三六
 三二六三
 而シテ其中ニハ日本人カ支那人カ將タ又瓜哇人カヲ區別シ能ハサル
 臺灣籍民ノ多數ヲ包含スルヲ以テ眞ノ日本人ハ其數更ニ尠キコトヲ
 知ラサルヘカラス而シテ眞ノ日本人ハ多クハ放浪者ニシテ正業者甚
 タ尠ク到底將來ノ發展ヲ企圖スル所以ニアラス前表中無職業及職業
 ノ申告ナキモノ三分ノ一以上ニ達スルヲ見ハ想半ハニ過クルモノア
 ラジ其他ハ小商人職人等ニアラスンハ眞珠漁業ニ従事スル労働者等
 トナス故ニ同地ハ未開地ノ廣大ナルニ似ス根本的發展策ヲ立スルモ
 ノ尠キ所以ナリ殊ニ同地官憲ハ邦人ヲ嫉視スル傾向アルノミナラス
 地方ニ依リテハ一定年間同地ニ居住シタルモノニアラスンハ土地企
 業ヲ許ササルヲ以テ這種ノ企業的發展ハ俄カニ企圖シ得サル事情ア
 リ夫レ如此有爲ノ人物カ折角同方面ノ企業計劃ヲ擁シテ渡航スルモ

直列ニ著手スニカラス年來同地ニ居住スルモノハ本計劃ヲ企圖シ得
 ベキ人物ニテカラストスルニ同方面ノ企業計劃ニ極少ナルモ亦々宜
 ベナリト云フニ近頃本島糖業者等以テ彼地ハ糖業計劃ヲ有スルカ
 キニアラスト雖モ既ニ著手シタル所ニ臺灣製糖ハマアルニ實ニ同方
 面ノ企業者トシテ今日マテ聞キ得タルモノヲ殆ク左記ニ過キス

關領東印度ニ於ケル邦人企業者一覽表 (本表ハ諸材料ヨリ抽出ス)

所在地名	面積	主ナル事業	正金企業業者
モリス、シナト ミナハツサイ	未詳	椰子	伯野 大谷 光瑞
同 アル島下	未詳	椰子其他	山田 正雄
同 ホルネオ東南州、アロンガン	四八〇畝	農業養蠶	川原 正六
同 ホルネオ東南州、アロンガン	未詳	木材輸出	南洋木材株式會社
同 ホルネオ東南州、アロンガン	四〇〇畝	椰子	正源 司 寛 香
同 ホルネオ東南州、アロンガン	五三〇餘町	胡椒、護膜	神保 文 治
同 ホルネオ西部州、ランゲイ郡	四三七畝	椰子護膜	渡邊 竹次 郎

右表中ハ英領ボルネオノ邦人モ包含スト雖モ其數極少ナルヲ以テ大體當方面ノ計數ト見テ大過ナシ當方面ノ本邦人中醜業婦ノ過多ナ

雜貨商	一四七	四七	一九四
仲買、商賣員	二二	一五八	一〇〇
行、商	九三	一五八	一〇〇
店員、會計員、事務所員	一〇六	一五八	一〇〇
除車請負	一八	一五八	一〇〇
車馬業及自働車運轉手	一〇二	一五八	一〇〇
旅人宿下宿	八三	一五八	一〇〇
料理店飲食店	六五	一五八	一〇〇
遊藝場及興行營業	二二	一五八	一〇〇
遊藝、賭博業	九八	一五八	一〇〇
家事被傭人	二五	一五八	一〇〇
雜種労働	三〇	一五八	一〇〇
藝人、酌婦	一四	一五八	一〇〇
學生及補習生	三六	一五八	一〇〇
無職業及職業ノ申告ナキ者	三六	一五八	一〇〇
合計計數	三、一六八	三、〇九二	一、〇九四
前年同期ト比較	△増	△減	△増
戸口數	三、一六八	三、〇九二	一、〇九四

ルハ怪シムニ足ラス同地ハ古來醜業婦ノ策源地ト稱セラレ護謨栽培ノ勃興前々居留邦人ハ大部分醜業婦並ニ其寄生蟲ナリシヲ知ラバ想半ハニ過クモノアラシク然ルニ距今約十一年前三五公司カ一旦護謨栽培業ニ著手スルヤ爾來數年ノ間前者並ニ做フモノ續出シ獨リ護謨栽培業ノ激增ヲ來シタルノ面ニ於テ醫師、教育者其他邦人生活ニ必要ナル正業者ノ増加ヲ見タルハ勿論他面ニ於テ椰子其ノ他ノ栽培業者ヲ産ミ着ル企業的發展シツクハアルヲ見ル實ニ前表ニ從ヒ椰子ノ栽培に従事スルモノ以テ九人其他農業者七十六人牧畜養鶏十六人ヲ算ス唯其企業者ニ果シテ幾名ナルヤヲ知ルヘカラス護謨栽培園數ハ合計九十一ニシテ其下面積〇、七〇、三七二陸、植付面積四三、二八二陸ニ達スト云フ之ヲ地方別ニ掲グルハ左ノ如シハ五〇〇〇

本邦人經營護謨園地方別表 (大正五年五月)

普原	普原	1211	1115	100	100
千歳	千歳	1202	100	100	100
渡邊	渡邊	1211	100	100	100
朝日	朝日	1210	100	100	100
吉井	吉井	1211	100	100	100
飯田	飯田	1210	100	100	100
南	南	1210	100	100	100
長野	長野	1210	100	100	100
三	三	1210	100	100	100
徳	徳	1210	100	100	100
宅	宅	1210	100	100	100
矢	矢	1210	100	100	100
愛	愛	1210	100	100	100

五

普原	普原	1211	1115	100	100
千歳	千歳	1202	100	100	100
渡邊	渡邊	1211	100	100	100
朝日	朝日	1210	100	100	100
吉井	吉井	1211	100	100	100
飯田	飯田	1210	100	100	100
南	南	1210	100	100	100
長野	長野	1210	100	100	100
三	三	1210	100	100	100
徳	徳	1210	100	100	100
宅	宅	1210	100	100	100
矢	矢	1210	100	100	100
愛	愛	1210	100	100	100

同地方ノ護謨園共若表外四十有餘ニ達シ大ニ合計九千五百三及ラガ
 故ニ其ノ一ノ狀況ヲ審カテ以テ能ク其ノ難ヲ三五公司ニ移シ三井
 大倉藤田鈴木等巨資ヲ擁シテ經營スルモノ今則チ其ノ苦辛慘憺及ルモノ
 少カラザルモノ如ク殊ニ新嘉坡在住者ニシテ本業ヲ開始シタルモノ
 ノハ旅館雜貨商又ハ賤業ニ依リテ贏チ得タル少許ノ資金ト覺東ナキ
 曾讀トテ以テ作業シラハテ以テ經營困難ヲ避ケ亦チ揚子河ニ至リ
 テ或ハ積子講區依或ハ積子ヲテ「オツ」ト云テ其ノ少許ノ資金ヲ以テ
 人ノ金貸業者ヲ云テ等アリ高利ヲ以テ資金ヲ融通ラ得テ以テ經營費

五五

男勝シ明カニ認公ルヲ得現ニ亞細亞ノ最南端ニ於テ大觀山
 初寢山等ノ日本地名ヲ冠シタル山嶺ヲ望ムニ皆之ニ故兒玉伯公遺業
 ナリト稱スルモ其ノ地ヲ決シテ偶然ニカラズ知ル者ニ對シテ其
 同公司經營ニ係ル因シテ及テト六三三護謨園ニ最早多少ノ收穫ヲ
 見ルニ至リ大正三年ニ於テ前者ハ一箇年約十七萬斤後者ハ其萬七八
 千斤ヲ產出シ漸次其收穫ヲ增加シテ今ノ秋ニ至リ見レバ今ヤ
 其收穫額百萬斤以上ニ達セルヲ望ムルニ至リテ其收穫額ノ倍々
 同公司所屬以外ノ護謨園ニ在リテ收穫期ニ達セルモノ甚々多ク
 雖ニ六年前ニ植付テタルモノ既ニ切付テ開始スルニ足ルヲ以テ
 弗々其ノ收穫ヲ出スニ至リテ其價額約三百萬圓ニ過キテ
 本年ノ收穫額約三百三十萬斤ニ至リテ其價額約五百萬圓ニ過キテ
 本年ノ收穫額漸次増加シテ以テ明年約五百萬斤其價額約五百五
 十萬圓ニ増加スルコト四五五年以後約五百二十萬斤其價額約二千八百

萬圓ニ達スルコト云々若シ夫レ前記護謨園ニ於テ悉ク植付テ其各
 其ノ收穫額約一千餘萬圓ニ達スルニ至リテ其價額約一千餘萬圓ニ至
 ルニ至リテ其收穫額約一千餘萬圓ニ達スルニ至リテ其價額約一千餘萬圓
 此等ノ護謨園ノ叙上ノ如ク開園後幾何ナラシテ今尙開拓植付ヲ
 了セサルモノ又ハ植付ヲ了シタルモノ成木ニ達セサルモノ多キヲ以テ
 尙未タ收支然狀態ヲ檢定スヘキ時期ニアラサルハ勿論ナリ然カモ最
 近採液ヲ開始スルニ至リテ護謨園ニ就テ其ノ配當率ヲ見ルニ實ニ左ノ
 如クニ本報ニ前報見ル上ニ其ノ事業ノハヤク四セキ

十國ノ頭當マ各々	昨年度(前年度)	本年度(前年度)	本年度(前年度)
南洋護謨株式會社	其ノ頭當	八分五厘	一分
馬來護謨株式會社	其ノ頭當	四分	一分
亞細亞護謨株式會社	其ノ頭當	四分	一分
日新護謨株式會社	其ノ頭當	四分	一分
總計	其ノ頭當	四分	一分

而シテ右表中南洋護謨ノ工場費ノ大部ヲ日新護謨ハ借入金ノ一部ヲ返濟シタル上南亞公司ハ二割五分ノ積立ヲナシテ後如上ノ配當ヲナシタル所モカミシテ其ノ配當ハ半期毎ニ倍加シテ三年ヲ經過スレハ十割ノ配當ヲ得ベシト傳ヘラルル異否ハ未ダ知カズカテオスト雖

民免モ角本業ハ南洋發展上有望ノ事業タルヤ明カナリ...

椰子其ノ他以栽培業三就テ其積蓄ノ微スハ南洋ヲチク其ノ狀況全ク不明ニシテ詳述スルニ由チシテ...

第六章 暹羅

暹羅ハ南洋陸路於此ハ唯一ノ獨立國ニシテ廣漠タル未開ノ沃野ヲ包擁シ人口亦以漸薄シテ外來者ヲ開發待テ所多ク殊非邦人ヲ歡迎ス...

既ニ甚ク多カラシテ同地ニ居留スル邦人ハ尙更ニ極少ナリ...

曾テ稻垣公使ノ駐在時代ハ暹羅熱物與シ同地ニ渡航ヲ企圖スルモノ弗々傳聞セラレ政尾氏司法部顧問トシテ久シク在住シ多少本邦ノ勢力ヲ代表シタルカ如キ觀アリシト雖モ今キ其人スラ同地ヲ去リ其他少數ノ在留者ト雖モ近時漸ク減少ノ傾向アリ而シテ現時ハ僅カニ二百六名ニ過キスト云フ

其職業別左ノ如シ

盤谷帝國領事管轄區域内邦人表 (大正四年六月現在)

職業	男	女	計
官公吏	三	二	五
外國領事	二	一	三
醫師	一	一	二
齒科醫	一	一	二
農	一	一	二
和洋服縫製業	一	一	二
計	一四	一五	二九

貿易商	三	四	一	四
店員、社員、事務所員	二	六	二	八
鐵道従業者	五	二	二	二
旅人宿、下宿	三	五	二	二
料理店、飲食店	八	八	二	二
理髪、髪結業	一	七	一	一
技藝及娯樂ニ關スル業	六	四	一	一
無職業及職業ノ申告ナキ者	二	一	一	一
計	二二	二九	一五	一五
前年同期トノ比較△減	△	△	△	△
前月トノ比較△減	△	△	△	△

右表ニ從ヘハ護謨栽培ニ從事スルモノ男三女三計六名ヲ算ス其ノ業
主一人ナルヤ二人ナルヤ其ノ姓名其ノ地名其ノ狀況ニモ知ルヘカ
ラス前年刊行ノ同地護謨栽培者年報ヲ見ルモ邦人ノ農場ヲ發見スル
コト能ハス田房事務官ノ談話ニ依レハ柴棍附近ビモノア地方ニテ支

那人ト協同シテ護謨園ヲ經營スルモノ之ヲアツト云フヨリ見レハ或
ハ同園ニ關係スルモノナラン然ラズシハ他園ニ小作スルモノナ
ルベキカ更ニ不明ナリト雖モ兎モ角邦人ニシテ本事業ニ關係スルモノ
之ヲアルカテ明カナリト雖モ兎モ角邦人ニシテ本事業ニ關係スルモノ
曾テ當府ノ屬託タリシ高月一郎氏ハ佛人ト協同シテ東京ニ於テサイ
ヤル栽培ヲ開始シタリシカ其後蹉跎シテ關係ヲ絶チ目下海防營於テ
雜貨商ヲ營ミシハアツト雖モ兎モ角邦人ニシテ本事業ニ關係スルモノ
同港在留ノ横山正修氏ハ約四年前本邦以名譽領事タルルネオン氏
後援ヲ得富豪ナルチ一氏ト協同シ同港ヨリ北北西ニテカ河ヲ過
ルニ約二十五哩ノオク地方ニ農場及鐵區ヲ得樟樹及咖啡ニ栽培
石炭ノ探掘及陶器ノ製造等ヲ經營シツ、アリト云フ其農場ニ於テハ
前記ノ作物ヲ栽培シツ、アリト雖モ兎モ未タ試驗時代ニ屬シ其ノ成績不
明ナリトノ事ナリ同農場ニテハ松樹ノ造林ヲモ企テ松苗ヲ日本ヨリ

移入シ之レヲ植付クベシ其生育頗ル良好ナリト云々前々日本
 領區ハ一千餘町ニ亘リ石炭ノ品質優良ニシテ目下ハ年額四萬噸ヲ掘
 出シツルナリト傳ヘテ其等ノ煤田ノ開採ニ當リテハ其等ノ煤田ノ
 同氏ノ經營ニ係ル陶器製造所ハ邦人ハ發見ニ係ル陶器ヲ以テ創業
 水産ノ業ニシテ東京唯一ノ陶器工場ヲ設ケ目下ハ新式機械ヲ利用シ土
 火職工約五百名ヲ使役シ盛ニ本品ヲ製出スナリト云フ此等
 ノ事業ニ於テ事務員ハ勿論農夫坑夫及職工等ノ監督ハ殆ント全部邦
 人ニシテ將來其ノ發展ト共ニ多クノ邦人ヲ移入シテ此等ヲ監督セシ
 ムル筈ナリト云フ又其ノ他ノ邦人ハ東京ニ在リテハ其等ノ
 邦人カ老嫗ニ於テ土地ヲ所有セルモノ之レアル由ナルモ果シテ何
 人カ如何ナル事業ヲナシツルアルカ更ニ窺知スルカラシキ其他ニ就テ
 ハ吾人察聞シテ殆ント知ル所ナシ惟フニ同地ニ於テハ本邦企業家
 ノ特記スルキモノ未タ之レオキモノト思惟セラバシキハ其ノ由ナルカ

第八章 結論

督府ハ夙ニ南洋施設ヲ念トシ其ノ研究調査ニ從フ
 レカ爲メニ吏員ヲ派シ實地踏査ヲ爲サシメタルコト既ニ揚カテ不
 ニ明治三十三年ニハ當時ノ土木局長長尾半平並ニ
 派シ其翌年財務局長中村是公殖産局長新渡戸稻造
 其ノ事情ヲ調査セシメタル以來當府官吏ヲ彼地ニ
 ニ少シカラズ即チ左ノ如クシテ調査スル者多ク

調査年月日	派遣地	官職名	氏名
三十年十二月十八日	香港、新加坡	院長	山口秀高
三十三年四月十三日	四領區、英領印度、アナン、暹羅、アムステルダム、アレキサンダー	技師	長尾半平
同 十八月二十九日	英領印度、南洋諸島	技師	宮尾舜治
同 九月一日	新加坡、英領印度、波新國シラフ	技師	鈴木益六
三十四年四月十九日	歐米各國、英領印度及南洋諸島	財務局長	中村是公

同	八月二十八日	英領海峽殖民地、英領印度、蘭領印度、シヤ、スマトラ	專賣局技師	今福結藏
同	九月二十九日	英領ボルネオ、蘭領ボルネオ	技師	堀内政三
同	同	同	技師	山崎嘉夫
同	同	同	技師	松子幸作
同	大正五年一月二十四日	比律賓、蘭領東印度及英領東印度	專賣局技師	堀内政三
同	二月二十八日	ボルネオ、スマトラ、瓜哇、馬來半島及比律賓	技師	堀内政三
同	四月十三日	英領ボルネオ、モレス、瓜哇、新嘉坡、比律賓、香港、汕頭、廈門	技師	高木友枝
同	大正五年四月十三日	同	技師	保木利吉
同	同	同	技師	八田興一
同	同	同	技師	中井宗三
同	同	同	技師	井野源
同	同	同	技師	加藤豐次
同	同	同	技師	阿部五郎
同	同	同	技師	片山秀太郎
同	同	同	技師	梅谷光貞
同	同	同	技師	鎌田正成
同	同	同	技師	伊藤兼吉
同	同	同	技師	藤代三九三
同	同	同	技師	越村長次

此等小夫の専門的事項の研究調査ヲ以テ本島ヲ經營經營資テシテ
 欲シタリテハ其ノ其ノ價値ヲ有スルモノナリテ明カニ南洋
 施設ノ材料トシテ悉ク相當ノ價値ヲ有スルモノナリテ明カニ南洋
 近年ハ稻垣堀内高木三醫學博士河合林學博士早田理學博士等専門
 學者ヲ派遣シ邦人發展ノ根本問題タル衛生狀態並ニ其ノ基礎タル
 植物分布ノ狀況ヲ調査シテ現今ニ事務官三名檢察官兼視各一名ヲ
 派シ各種制度之調査ヲ爲サシメ將來ニ引續キ各種ノ研究調査ヲ續行
 セシメツルヲ以テ南洋發展ノ基ヲ固メテ南洋發展ノ基ヲ固メ
 而シテ其間督府ノ前章記載ノ如ク三五公司ヲ補助シ南洋ノ諸
 謀栽培業ヲ助成シテ南洋發展ノ基ヲ固メテ南洋發展ノ基ヲ固メ
 行ノ南洋發展ヲ助成シテ南洋發展ノ基ヲ固メテ南洋發展ノ基ヲ固メ
 爾來督府ノ施設漸次具體的トナリ從來計劃シ來タリ南洋各地ヲ派
 々實現スルニシテ大正四年ヨリ五年ニ亘リ吏員ヲ南洋各地ヲ派

シテ臺灣産業共進會ヲ出品ヲ勸誘シ同共進會ニ東特ニ南支那及南洋
館ヲ開設シテ進歩同地ヲ狀況並ニ物品ヲ紹介スルヲ努メ以テ之ニ關
以ル智識ヲ開發シ資ヲ充テ以テ其進會ニ固ヨリ一時の施
設ニ止ラズ繼續的ニ其ヲ開發シ企テ之ヲ以テ大正六年當該商
品陳列館ヲ設置シ主テ南洋方面ノ物品ヲ由陳列館同時該各種經
濟狀態ヲ研究調査ヲ施行スルコト、ナシタリシカ右ノ施設ハ尙未ダ
不規模ニ多ク多ク期待スルカラ設テ雖其功其功企圖ヲ進歩ニ將來
ニ於テ大發的調査機關ノ基礎トシテ相當貢獻ヲ所ニシテ之ヲ以テ
ヲ想シテ諸君、華人等ノ用本國國々、諸君進歩ニ其ハ其功、
航路ノ開拓は大正五年度留學實現ニシテ南洋方面ニ從來本島
對南洋間ノ交通ヲ注シテ對岸ヲ經由シタリシカ其後大正元年南洋
郵船ヲ南洋航路ヲ開始スルヤ往航ニ限リ本島ニ寄港スルヨリ、
爲シテ包種茶ヲ始メ臺灣對南洋ニ輸出スル貨物ヲ航運シ大ニ其

七四

ノ利便ヲ感シ各々ノ事實ナリ然レモ同航路船ハ復航ニ際シ本島ヲ經
由セザルノ據アリシヲ以テ大正五年度以降ハ大阪商船ヲ以テ三重
級三隻ヲ以テ南洋航路ヲ經營セシヨリ、其功ニシテ之ヲ以テ其成績頗
ル良好ナルヲ以テ其後附屬船一隻ヲ加ヘ都合三隻ヲ以テ同航路ヲ經
營スルコトナレリ、其功ニシテ之ヲ以テ、
其ノ第一回航海ニ際シ督府ハ南洋觀光團ヲ組織シ新渡月博士ヲ顧問
トシ高木博士ヲ團長トシ知名ノ學者、實業家、新聞記者等六十名ヲ網羅シ
相率テ南洋ノ風物ヲ觀察セシメ、六月三十日基隆ニ歸航シ無事ニ其
ノ目的ヲ達シタルハ論ナク此舉ハ偶々以テ彼我官民ノ親交ヲ温メ意
志ノ疏通ヲ與ツテ力アリシヲ認ム、
斯クテ本航路ハ南洋向貨物激增ノ折柄其ノ運輸ニ貢獻スル言テ頗ル
多シト雖モ其ノ船舶ハ主トシテ貨物ヲ輸送スルニシテ勞働者ノ

七五

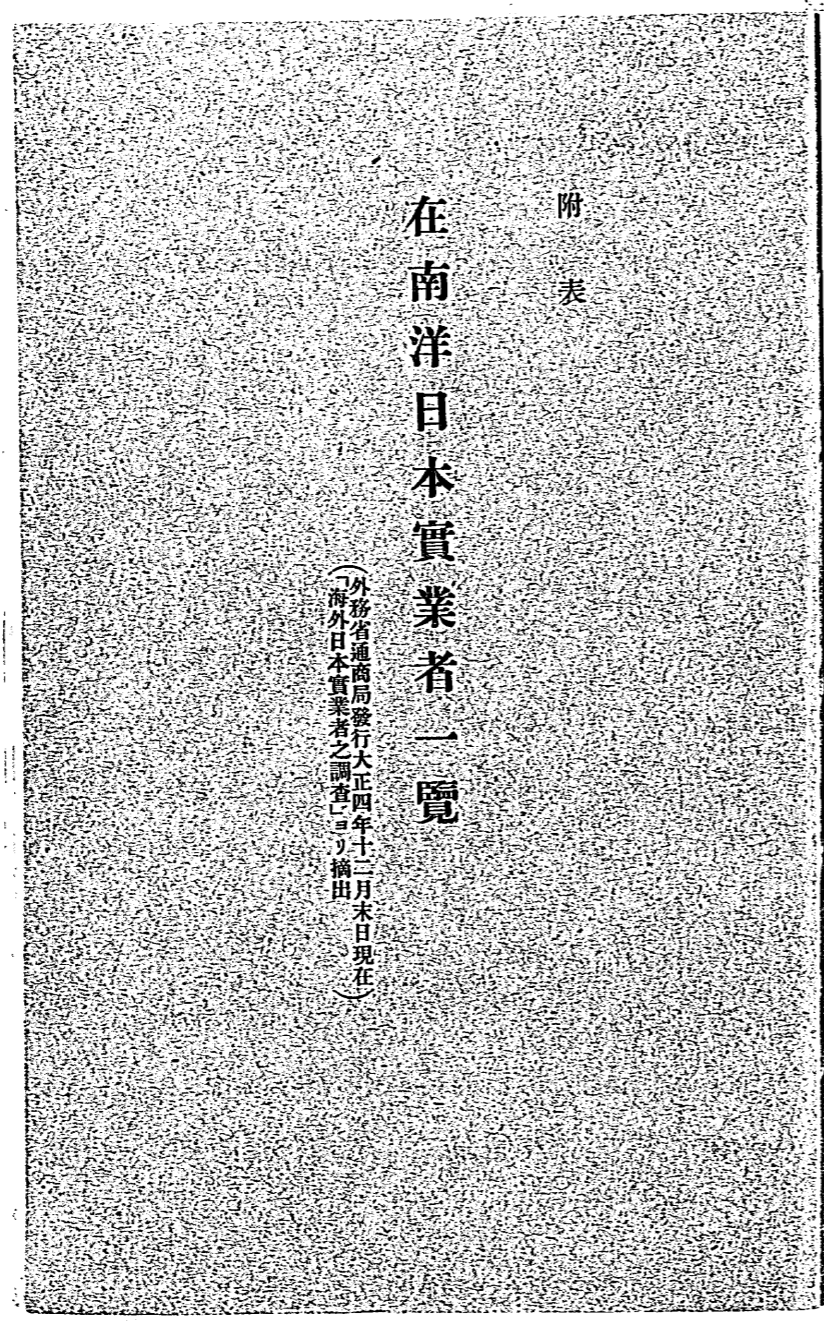
邦ノ工業原料トシテ必須缺クヘカラサル護謨、椰子、マニラ麻等ノ栽培業ハ實ニ邦人ノ經營ヲ必要トシ且ツ期待シツ、アル所胡椒、咖啡ノ如キ「カボツク」龍舌草、棉花ノ如キ孰レモ同地ニ於ケル相當有利ノ事業ナルヲ以テ若シ邦人ニシテ適當ノ方法ニ依リ之ヲ經營セハ必スヤ好箇ノ事業トナルヘキヤ甚タ明カニシテ今ヤ南洋ノ開發ハ尤モ其時機ヲ得タルモノト云フヘキナリ

八〇

附表

在南洋日本實業者一覽

(外務省通商局發行大正四年十二月末日現在)
 (海外日本實業者之調査)ヨリ抽出



南洋日本貿易會

◎在マニラ帝國領事館管内
○比律賓群島マニラ市

營業主任人若クハ主任	事務所	本籍地名	營業種別	資本金	取引實買額 通貨換算	入使員用
三神敬長	三井物産株式会社マニラ出張所	東京市日本橋區横河町	貿易業	四百八十萬圓	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇
田中寛	伊藤忠倉庫株式会社マニラ支店	大阪市東區本町三丁目	同	二百萬圓	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇
太田泰三郎	伊藤忠倉庫株式会社マニラ出張所	兵庫縣朝來郡竹田村	麻及雜貨貿易業	二百五十萬圓	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇
清水宇三郎	小倉貿易部マニラ出張所	横濱市北仲通一丁目	貿易業及委託販賣	七十五萬圓	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇
田川森太郎	田川商店	長崎縣西彼杵郡茂木村	麻輸出業	七十五萬圓	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇
松原秀一	檜崎久衛商店マニラ出張所	神戸市榮町五丁目	貿易業	七十五萬圓	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇
大賀猪之助	大賀ハザ	愛媛縣喜多郡大洲村	雜貨卸小賣業	十五萬圓	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇
松井國五郎	松井商會	愛媛縣喜多郡大洲村	同	十二萬五千圓	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇
並河徳雄	並河ハザ	徳島市助任町	同	八萬圓	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇
三澤乙吉	三澤ハザ	長崎縣西彼杵郡茂木村	同	八萬圓	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇
高橋精一	高橋ハザ	廣島縣豊田郡久芳村	同	八萬圓	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇
澤松好之	澤松ハザ	愛媛縣喜多郡大洲町	同	六萬圓	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇
山田俊明	山田硝子工場	東京府在原郡品川町	硝子製造業	六萬圓	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇
井原家吉	井原興業株式会社	愛媛縣八幡郡八名村	麻輸出及栽培業	六萬圓	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇

野口 賢三	野口商店	大坂市南区豊谷東ノ町	雜貨卸小賣業	未詳	五萬圓	土日
福田 太吉	福田商店	廣島縣尾道市十四日町	同	同	四萬圓	土日
小林 源造	神月ハザリ	兵庫縣城崎郡竹野村	同	同	四萬圓	土日
小川 修治	小川時計店	岐阜縣安八郡大垣町大字木	時計賣石商	同	三萬五千圓	土日
岸本 新吉	岸本ハリスバザリ	神戶市兵庫東川崎町	雜貨卸小賣業	同	二萬五千圓	土日
岸本 幸吉	横濱ハザリ	横濱市四月部町	同	同	三萬五千圓	土日
山本 鶴次郎	山本ハリスバザリ	山口縣玖珂郡伊佐村字藤之	同	同	一萬五千圓	土日
香椎 彌二郎	ルックン スツザオ	長崎縣壱岐郡香椎村	同	同	一萬圓	土日
青山 鶴吉	青山眞眞館	長崎縣足羽郡和田村大字和	同	同	一萬圓	土日
高澤 庄之助	高澤商店	熊本縣宇土郡大嶽村大字大	雜貨小賣業	未詳	二萬圓	日
中山 勝太郎	中山商店	山口縣阿武郡養生村榎木	同	同	二萬圓	日
中山 三吉	中川商店	熊本縣宇土郡大嶽村大口	同	同	三萬五千圓	日
井口 實藏	井口商店	福岡縣宗像郡神興村牛光	同	同	一萬二千圓	日
宮崎 隆藏	宮崎商店	福岡縣三井郡金島村中川	同	同	一萬三千圓	日
下國 恒次郎	下國商店	福岡縣三井郡草野町	同	同	一萬二千圓	日
木村 勘五郎	木村商店	北海道的島根郡宮崎村	同	同	一萬圓	日
早川 多作	早川商店	熊本縣上益城郡秋津村大字	同	同	一萬圓	日
早川 多作	早川商店	山梨縣東八代郡一宮村	雜貨卸小賣業	未詳	六萬圓	土日
皆川 八重藏	皆川商店	神奈川縣津久井郡千木真村	雜貨小賣業	未詳	四萬圓	土日
皆川 八重藏	皆川商店	神奈川縣津久井郡千木真村	雜貨小賣業	未詳	四萬圓	土日

○比律賓群島ラグナ州カビテラ州カビテラ

西 外泊	西教商店	福井縣南越前郡武生町深草區	雜貨小賣業	未詳	二萬圓	土日
鷓田 又藏	鷓田商店	福岡縣三井郡國分村國分	雜貨小賣業	未詳	一萬圓	土日

○比律賓群島ラグナ州カビテラ州カビテラ

鷓田 又藏	鷓田商店	福岡縣三井郡國分村國分	雜貨小賣業	未詳	一萬圓	土日
-------	------	-------------	-------	----	-----	----

村止 寅吉 村止商店 富川猪之助 富川商店	廣島縣沼田郡百島村 山口縣玖波郡麻里布村室木	雜貨小賣業	未詳	五萬圓	王日王日
○比律賓群島セ州セ					
坂本益五郎 坂本商店	長崎縣西彼杵郡荒木村	雜貨小賣業	未詳	三萬圓	王日
○比律賓群島スル義島ホロ					
社長太田三郎 スル義島探員株式會社	兵庫縣朝來郡竹田村	探員業	十九萬九千九百圓	六萬圓	王日
○比律賓群島ミンダナオ島サンボアング					
太田三郎 太田興業株式會社 宮本三之助 宮本商店 中村謙次 中村商店	兵庫縣朝來郡竹田村 和歌山縣西牟婁郡富里村 福岡縣三浦郡三又村六口	探員業 探員業 探員業	未詳	五萬圓 二萬圓 三萬圓	王日 王日 王日
○比律賓群島ミンダナオ島					
高野三郎	探員業	探員業	未詳	二萬圓	王日

太田三郎 太田興業株式會社 古川義三 古川拓殖株式會社 繁澤清助 繁澤拓殖株式會社 岡田孝太郎 岡田興業株式會社 金城三郎 金城拓殖株式會社 上田玄之助 上田拓殖株式會社	兵庫縣朝來郡竹田村 滋賀縣大上郡豐郷村大字四十九院 山口縣大島郡神浦村 廣島縣甲斐郡甲辰村 沖繩縣國頭郡金武村 熊本縣下合郡小野田村	椰子栽培業 麻栽培業 麻栽培及雜貨小賣 麻栽培及雜貨小賣 麻栽培及雜貨小賣 麻栽培及雜貨小賣	五十萬圓 十萬圓 十萬圓 三萬圓 三萬圓 三萬圓 三萬圓 三萬圓 三萬圓	王日 王日 王日 王日 王日 王日 王日 王日 王日
○比律賓群島アルガイ州リガオ				
廣田牛松 廣田實業會社	兵庫縣津名郡江井村	貿易及耕作業	三萬圓	王日
○マリアナス群島				
清水三郎 清水兄弟商會 羽生彦四郎 南洋貿易商會 聯合文二 聯合商店	東京市京橋區新港町 東京市本郷區駒込道分町 茨城縣猿島郡古河町	貿易及耕作業 貿易及耕作業 貿易及耕作業	八萬圓 八萬圓 八萬圓 八萬圓 八萬圓	王日 王日 王日 王日 王日

◎在マタピヤ帝國領事館管内
瓜哇

澁谷常五郎 澁谷商店	静岡縣	雜貨卸小賣仲藏	十二萬五千三百三十三圓	一
柴田十郎 御國商會	静岡縣	雜貨卸小賣	三萬九千九百	二
樋口寅雄 三木屋商會	静岡縣	同	二萬九千	三
尾島作市 尾島商店	静岡縣	綿布雜貨卸小賣	七千九百	四
八木 兎 大和公司	静岡縣	美術雜貨	二萬九千	五
山崎敏三 三和屋	三重縣	雜貨小賣	五萬九千	六
武内彌太郎 成興商會	香川縣	藥種化粧品卸小賣	二萬九千	七
田中重之助 田中藥房	兵庫縣	藥種化粧品卸小賣	五萬九千	八
大谷喜一 大谷洋行	静岡縣	雜貨卸小賣	二萬九千	九
市村藤七 明治商會	横濱市	雜貨卸小賣	七萬九千	一〇
豊泉政吉 東洋商會	同	貿易及卸掛 雜貨	三萬九千	一一
今泉甲子郎 今泉商會	茨城縣	菓子栽培 雜貨	三萬九千	一二
平井仲三 平井商會	東京府	菓子栽培 雜貨	三萬九千	一三

摘要 澁谷常五郎、柴田十郎、樋口寅雄、尾島作市、八木兎、山崎敏三、武内彌太郎、田中重之助、大谷喜一、市村藤七、豊泉政吉、今泉甲子郎、平井仲三、オホノネオセレス及東部諸島

玉木長市 遠東商會	熊本縣	雜貨小賣	一萬八千五百	五
花岡 泰 島根商店	島根縣	雜貨卸小賣	二萬九千	六
小川利八郎 小川洋行	子鹿縣	雜貨卸小賣	六十九萬九千	七
堤林敬齋 南洋商會	山形縣	雜貨及藥種小賣	七萬九千	八
高橋安三 高橋商店	長崎縣	雜貨卸小賣	三十三萬九千	九
野呂隆三郎 三井物産株式會社	東京市	雜貨卸小賣	十五萬八千	一〇
西岡由太郎 福島洋行	大阪	雜貨卸小賣	三萬九千	一一
橋本健一 橋本兄弟商會	東京	美術雜貨卸小賣	三萬九千	一二
小林吉次 株式會社澁谷商會	同	雜貨卸小賣	三萬九千	一三
安倍之助 安倍洋行	秋田縣	同	三萬九千	一四
同 安倍之助 安倍洋行	同	同	三萬九千	一五
澤部隆雄男 富士洋行	東京	雜貨卸小賣	三萬九千	一六
松永吉茂 松永商店	福岡縣	雜貨物産卸小賣	三萬九千	一七
高尾三郎 高尾商店	熊本縣	雜貨物産卸小賣	三萬九千	一八

摘要 玉木長市、花岡泰、小川利八郎、堤林敬齋、高橋安三、野呂隆三郎、西岡由太郎、橋本健一、小林吉次、安倍之助、澤部隆雄男、松永吉茂、高尾三郎、オホノネオセレス及附近諸島

支店長中山 三井物産株式会社支店	支店長津幸一 乙宗商店	長野 大和商會	中川 中川商店	芝田 長井商店	城野 三太郎 日本商會	庄司 庄司商店	小山 重之助 小山商店	小山 新之助 同	小山 徳松 同	播磨 勝太郎 播磨ホーレル	支店長竹内 日本實業株式会社支店	市岡 計介 友田合資會社	高橋 忠平 高橋商店	有坂 利一 有坂商店	菅原 通洋 菅原商店	上田 弘剛 川原商店	坂部 泰次郎 三宅商店
東京市神田區駿河臺北甲賀	大阪市東區味原町	鹿児島縣鹿毛郡四之表	滋賀縣蒲生郡柳原村	三重縣北牟婁郡二郷村	福岡縣宗像郡福岡町	和歌山縣日高郡三尾村	和歌山縣海草郡日方町	同	同	佐世保市濱田町	東京市日本橋區小島町	岐阜縣惠那郡中津川	新潟縣刈羽郡時崎町	群馬縣山田郡休泊村	東京府豊多郡津橋町	福岡縣鞍手郡四川村	京都府南桑山郡桑山村
貿易	貿易	貿易	貿易	貿易	貿易	貿易	貿易	貿易	貿易	活動寫真及旅館	工業藥品	衣服	衣服	衣服	衣服	衣服	衣服
約二十五萬	約二十五萬	約二十五萬	約二十五萬	約二十五萬	約二十五萬	約二十五萬	約二十五萬	約二十五萬	約二十五萬	約二十五萬	約二十五萬	約二十五萬	約二十五萬	約二十五萬	約二十五萬	約二十五萬	約二十五萬
三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四

一九

◎在新加坡帝國領事館管内

雪本 四郎 雪本商會	波達 太一 波達合名會社	佐藤 正一 山田商店	岩井 清夫 岩井商店	尾田 隆藏 尾田商店	水野 角十 水野商店	森田 五郎 森田商店	左杉 雄井 雄井三友公司
大阪府	京都府	岡山縣	長崎縣	和歌山縣	福岡縣	長崎縣	福岡縣
雜貨	雜貨及食品	雜貨	雜貨	雜貨	雜貨	雜貨	雜貨
五千盾	五千盾	五千盾	五千盾	五千盾	五千盾	五千盾	五千盾
四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一

八

